

○事業の概要（藤岡市教育委員会の取組）

1 道徳教育における小中一貫教育の推進

- 昨年度、東中校区の小学校3校、中学校1校の児童生徒の課題を、教職員の意見や保護者・地域へのアンケート調査から把握し、東中校区の道徳教育における重点項目を設定した。本年度は、その設定した重点項目について、東中校区全体における小中一貫の系統表を作成し、その系統表に基づく実践を行うとともに、9年間の学びのつながりのある道徳の授業について校区全体で理解を深めた。

2 実践

- 東中校区の重点項目について、重点項目に関係する各校の行事や、4校共通した取組、各校で利用している資料などを載せた系統表を作成した。
- 作成した系統表に基づいた、授業実践を行い、学びのつながりのある授業について校区内の教員で理解を深めた。
- 「道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』」（H26 群馬県教育委員会）に載っている藤岡市に関係した資料を活用し、地域学習も兼ねた道徳の授業実践を行った。

3 教職員の資質の向上

- それぞれの学校で公開授業を行い、小中学校の教員が合同で授業研究を行うことで、学びのつながりのある道徳教育を行うために、どのような授業を行うべきかについて理解を深めた。
- 道徳教育講演会を行い、発達段階に応じた授業の進め方や、読み物資料を基にした発問の構成の仕方などを知ることで授業力向上を図った。

4 地域・家庭との連携

- 学級通信やWebページによる授業の様子の発信、授業参観等を通して、地域や家庭の意見や感想をうかがう機会を設け、より実践的な道徳の授業をめざし、授業改善を行った。
- 道徳の授業で扱った内容項目について、ワークシートを家庭に持ち帰り、家庭でも考える機会を設けることによって家庭と連携して道徳教育を行った。

5 事業の成果

- 東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」について、東中校区全体で小中一貫した系統表を作成したことで、小中9年間を見通した東中校区の道徳教育がより具体的になった。
- 道徳教育講演会の開催により、教師の道徳に対する意識が高まるとともに、授業づくりの具体的なポイントについて学ぶことができ、指導力の向上につながった。
- 地域や家庭に道徳の指導の様子を学級通信やWebページで発信したり、道徳の授業で行った内容項目について家庭で考えさせるような取組を行ったりすることで、地域や家庭と連携した道徳教育を行うことができた。

藤岡市教育委員会の事業内容

1 市の概要

教育委員会名	所在地	電話番号	学校数
ふじおかしきょういくいいんかい 藤岡市教育委員会	藤岡市藤岡 1 4 8 5	0274-50-8212	小学校 11校 中学校 5校

2 これまでの取組

「道徳教育における小中一貫教育の推進」

本市では、授業を中心とした教育における継続性・安定性の保障を目指し、平成26年度から小中一貫教育に取り組んでいる。具体的には、小野小学校・小野中学校を先行実施校とし、小中9年間で目指す子どもの姿を明らかにするとともに、9年間を見通したカリキュラムづくりを進めてきた。その成果や課題をもとに、全校区で小中一貫教育を推進し、学びのつながりと生徒指導の継続に視点を置いた実践が行われている。

前年度も本事業による指定を受け、本市で取り組んでいる小中一貫教育の一環として、小中9年間で目指す子ども像の育成に向け、児童生徒の発達段階や学びのつながりを踏まえた道徳教育の推進を図った。

具体的には、本市にある5つの中学校区の中から、東中校区（藤岡第一小学校、美九里東小学校、美九里西小学校、東中学校）を指定校区とし、東中校区が9年間の教育活動で目指す子ども像である「広い心、頑健な体、信頼できる学力をもった子ども」に迫るための課題は何か、保護者や地域、教員の願いをもとに育てたい・伸ばしたい内容項目は何かといった観点で実態を分析し、「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」の3つを重点項目として設定した。

また、道徳ファイルや道徳ノートなどを準備して、授業で記述させた児童生徒の思いや考えを積み上げていく取組を校区全体で行うなど、小中一貫した道徳教育の充実を図ってきた。

3 研究の概要

(1) 研究のねらい

東中校区で定めている3つの重点項目に係る系統表を作成し、学びのつながりのある授業実践を行う中で、校区内の学校における協働による授業づくりや合同研修会、家庭や地域との連携を通して、さらに道徳教育の小中一貫教育推進体制を整え、教員の指導力向上及び家庭や地域の道徳教育に対する意識の高揚を図り、道徳教育の一層の充実をねらいとする。

(2) 研究の内容

① 東中校区の重点項目に係る系統表作成と実践

東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」に関わる道徳の授業をする際、内容項目の概要や各学年の指導上の留意点などが整理された系統表を作成する。系統表には重点項目に関わる教育活動や各校で使用されている資料も載せることで、教師が学びのつながりを意識した授業をする上で参照しやすいように作成する。また、作成した系統表を活用し、授業実践することで、重点項目をより意識した教育活動を行う。

② 教師の指導力向上

昨年度と同じ講師を招き、道徳教育後援会を行い、読み物資料の価値の分析やねらう価値に迫る発問の構成など、授業で活用できる具体的なポイントについて学ぶことで、授業力の向上を図れるようにする。

また、校区内の学校で学びのつながりを意識した公開授業や協働的な授業づくりを行うことで、教師が小中一貫した道徳指導についての意識を高められるようにする。

4 実践事例

<小学校（5年）での道徳授業実践>

- ① 主題名 相手の立場に立って B－（7）親切、思いやり
- ② 教材名 「くずれ落ちただんボール箱」（出典：東京書籍）
- ③ ねらい 困っている人を見たときに、その人の立場に立って考え、親切にしようとする心情を育てる。

④ 学びのつながり

	ねらいとする価値	資料名
小学校 低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	るいくんのゴール さんぼ道
小学校 中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にする。	耳をおいてでかけられますか？ 心と心のあく手
小学校 高学年	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	くずれ落ちただんボール箱 言葉の力、わたしの思い
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	月明かりで見送った夜汽車

⑤ 指導の工夫

- 心情円盤（「やりたい気持ち」をピンク、「やりたくない気持ち」を青で表現する）で主人公の心情を表現することにより、それぞれの児童が考えの違いを理解し、児童の多面的な意見を引き出せるようにした。
- 中心発問では、ワークシートに自分の考えを書かせてから話し合いをすることにより、一人一人が自分の意見をもって主体的に話し合いに参加できるようにした。また、追発問し児童の考えを掘り下げ、類型化することによりねらいとする価値に気付くことができるようにした。



⑥ 学習の様子

孫がくずしてしまっただんボールを、おばあさんに代わってわたしと友達の友子が整理した。しかし、事情を知らない店員にだんボール箱をくずしたのが自分達だと勘違いされて叱られてしまう。納得のいかない二人であったが、3学期の始業式で、店員からの謝りの手紙を聞いて二人の心は明

るくなるという資料である。主人公の心の動きを追いながら、心の葛藤やすがすがしさに共感させながら授業を展開した。

<主な発問と児童の発言>

○ 店員にしかられ、一緒に残りの段ボールを片付けるわたしはどんな気持ちだったでしょうか。

- ・わたしがやったわけではないのに。
- ・何で？ どうしてわたしが怒られるの？
- ・こんなことになるなら、手伝わなければよかった。
- ・男の子のせいで怒られた。
- ・いいことをしたのに、怒られるなんてすごい嫌だ。

◎ おばあさんからお礼を言われたわたしはどんな気持ちだったでしょうか。

(心情円盤でやらなければよかったという気持ち表現した児童の意見)

- ・怒られて嫌だけど……。
- ・悔しいけど……。
- ・手伝わなければよかった。

(心情円盤でやってよかったという気持ち表現した児童の意見)

- ・やってよかった。
- ・お礼を言われたからよかった。
- ・男の子が見つかってよかった。
- ・おばあさんのためにだんボールを片付けた。よろこんでもらってよかった。
- ・これからも困っている人がいたら助けよう。

<児童の感想>

- ・お礼を言ってもらうのではなく、困っている人を助けてあげたい。
- ・困っている人がいたら積極的に助けたい。

⑦ 成果と課題 (○成果、●課題)

○ 心情円盤を使って主人公の心情を表現させることは、視覚的に分かりやすく有効な手立てである。また、自分と友達の考えの違いを捉えやすく、多様な意見が出た。

○ 心情円盤を使って主人公の心情を表現してワークシートに自分の考えを書き、自分の意見をもってから話し合いをしたので、多種多様な意見が積極的に出され、主体的な活動となった。

○ 追発問し児童の考えを掘り下げながら類型化することにより、ねらいとする価値を高めることができた。

● 話し合いを深めるために心情円盤をどのように活用したらよいか、有効な使い方についての検討がまだ不十分であった。

● 「また怒られるかもしれないからもう片付けないよね?」「くずれただんボールは店の人が直せばいいんじゃないの?」など、切り返しや揺さぶりの追発問をすることで、更に高い価値へと引き上げることができる。



系統表

東中校区重点内容項目：「親切・思いやり」

	低学年		中学年		高学年		中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
内容項目	B-(6) 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること		B-(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること		B-(7) 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること		B-(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること		
内容項目の概要	自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。お互いが相手に対して思いやりの心をもって、接することが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのため、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には、相手の立場を考えた上での相手の気持ちを想像したりすることを通して助まじや援助をすることである。また、単に手を差し伸べることだけでなく、時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。相手のことを親身になって考えようとする態度を育てることが期待される。特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。		学校生活を中心として友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がっていく。様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。一方、ともすると他の人々の考え方や感じ方が自分たちの考え方や感じ方と同様であると思いがちになる。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。		自分を客観的に捉えることができるようになってくる。そのため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像することができるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。		学年が上がるにつれて、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気づく一方で、家族など日常的に接している人々に対し、支えられていることを有り難いと思いつつも、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感ぜたりしている。特に、自分の存在に深く関わることになる言葉や行動としてうまく思いやりや感謝の気持ちを表現できないこともある。		
学年別特質	家族だけでなく家の周りの人や学校の人々、友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的な特質から自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気づくことができるようになる。								
指導上の留意事項	○幼いや高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにする。 ○身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手の結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにする。		○相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちであることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようになる。		○特に相手の立場に立つことを強調し、自分自身が相手に対してどのように接し、対応することが相手のためになるのかをよく考え、適切な行動をとることができるようにする。 ○人間関係の深さの違いや意見の違いなどを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことができるようにする。 ○児童が多様な人々と触れ合い、助け合うことができるような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する。		○単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との絆をより強くするのだから大切に気付かせたい。 ○互いに支え合う関係を積み重ね、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることに喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。		
資料	「はらのうえのおおみ」(第一小・美東小・美西小) 「わたしたちの道徳」(第一小・美東小・美西小) 「あめのみ」(美西小・こころないで)	「公園のおにごっこ」(第一小・美東小・美西小) 「ぐみの木と小鳥」(第一小・美東小・美西小) 「大きいりんごと小さいりんご」(美西小・こころないで)	「新幹線で」(第一小・美東小・美西小) 「草をひいて出かけられますか」(第一小・美東小・美西小) 「きんぎょさん」(美西小・こころないで)	「心と心のあふく」(第一小・美東小・美西小) 「心の信号機」(第一小・美東小・美西小) 「きんぎょさん」(美西小・こころないで)	「最後のおくり物」(第一小・美東小・美西小) 「台湾からの転入生」(第一小・美東小・美西小) 「思いもよらぬできごと」(美東小・美西小・こころないで)	「雲のぼろし」(第一小・美東小・美西小) 「言葉のか・わたしの思い」(第一小・美東小・美西小) 「心の宝物」(美西小・美東小・こころないで) 「最後のおくり物」(美西小・美東小・こころないで)	「おばあちゃんの指輪」(「自分を見つめる1」) 「改めくだもの屋」(「自分を見つめる1」) 「語りかける目」(「自分を見つめる1」) 「ふたりの子供たちへ」(「自分を見つめる1」)	「やさしさのかたち」(「自分を見つめる2」) 「一番好きで、一番嫌いだ」(「佐賀のなげばあちゃん」) 「買物の贈り物」(「私たちの道徳」)	「決壊へ！上村愛子」(日本標準) 「流れ星」(東京書籍) 「買物の贈り物」(私たちの道徳)
東中校区重点内容項目	東中校区子どもサミット「いじめ防止のスローガン作成や活動等」(第一小・美東小・美西小)								
東中校区重点内容項目	あいさつ運動・ハッピー・ハートフルツリー運動(第一小・美東小・美西小)								
内容項目の取組	第一小 学校たいすき 幼保連携あそび あそぶかい 秋のバス旅行 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 運動会：にこにこ 玉入れ 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第二小 1年生をむかえる会 1年生と遊ぶ会 学年ドッチボール大会 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 美西小 対面式 運動会：にこにこ 玉入れ 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第三小 人権集中学習 なかよし集会 手話教室 美東小 縦割り班活動 藤岡特別支援学校の児童との交流会 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第二小 なかよし集会 人権集中学習 点字教室 美東小 縦割り班活動 総合：福祉体験教室 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	第二小 高齢者体験教室 人権集中学習 なかよし集会 美東小 縦割り班活動 総合：慰霊の杖 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会 総合：高齢者・障害者体験、ティサービス訪問	第二小 人権集中学習 なかよし集会 1年生給食の手伝い 美東小 縦割り班活動 総合：慰霊の杖 美西小 対面式 縦割り班活動 人権旬間 あんしんの家訪問 思いやり月間 6年生を送る会	人権旬間 アルミ缶回収	人権旬間 アルミ缶回収	人権旬間 アルミ缶回収

<中学校（3年）での道徳授業実践>

- ① 主題名 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深める
C-(13) 勤労
- ② 教材名 「足踏みミシンの修理屋さん」(道徳ノンフィクション資料 図書文化)
- ③ ねらい 主人公が葛藤を抱えながらも家業を継ぎ、お客様の喜ぶ姿を見て仕事を続

けていく意思を強くもつ姿について学ぶことを通し、社会貢献することが働くことの重要な意義の1つであることに気付かせる。

④ 学びのつながり

	ねらいとする価値
小学校 低学年	働くことのよさを感じて、みんなのために働く。
小学校 中学年	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
小学校 高学年	働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。
中学校	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する。

⑤ 指導の工夫

- 実際にマサザワミシンさんを訪問し撮ってきた写真を掲示することで、生徒が身近な問題としてとらえられるようにする。
- 増澤さんの気持ちの変化を時系列で追い、板書をまとめることで、生徒が主人公の気持ちの変化をわかりやすく理解できるようにする。
- 1人1人がきちんと自分の意見を持ち、発表し、友達の意見を聞いて再度自分の考えを見直しより深く考えることができるために、班で活動する場面と個人の意見を発表してもらう場面をバランスよく授業に取り入れる。

⑥ 学習の様子

将来の職業について考えるとき、自分自身の適性や長所、そしてやりたいことが中心になってしまう。しかし、職業はあくまでも社会貢献の側面があるということを感じさせたい。職場体験のチャレンジウィークの感想として生徒たちは、働くことに対して社会貢献の側面があることを感じた生徒は一人しかいなかった。しかし、主人公が夢を持っていたものの、ミシンを直した時のお客さんの喜ぶ姿にミシンを直すことに生きがいを感じていくことをじっくり考える中で、「将来は人に役立つことをしたい」といった実感をもつようになった。

⑦ 生徒の感想

「なぜ仕事を続けられたのだと思いますか。」

- ・自分がつがなければならぬという、責任感があったから。
- ・ミシンが息を吹き返すのがうれしい。
- ・長男だという責任感があったが、それだけでなく、ミシンを直すことでたくさんの人の喜ぶ顔が見られたから。
- ・自分が必要とされているから。
- ・仕事のやりがいがあったから。

「人は何のために働くのだと思いますか。」

- ・家族を養うため、生活のために働いている。
- ・人の役に立つため。
- ・お金も大切だけど、やりがいがある仕事もいい仕事だなと思った。
- ・人に喜んでもらえるというのは、うれしいことだなと思った。だれかのためになる人になりたい。



- ・人は、自分のため、人のために働くのだと思った。自分になりたいと思った仕事に必ず就けるわけではないと知った。でもやりがいを感じられるのはいいと思った。
- ・最初は、長男で継がなくてはならないからなどという理由で、仕方なく始めた仕事でも、嬉しいことや楽しいこと、やりがいがあるのだとわかった。
- ・人はお金や家庭のためなど、自分のこと以外に、お客様や社会のために働くのだと思った。将来やりがいを感じられる職に就きたいと思う。
- ・将来について、いろいろ考えられてよかった。
- ・あきらめずにがんばろうと思った。

系統表

東中校区重点内容項目：「勤労、公共の精神」

	低学年		中学年		高学年		中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
内容項目	C- (12) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。		C- (13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。		C- (14) 働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。		C- (12) 社会参画の意義と社会連帯の自覚を深め、公共の精神をもってよりよい社会に実現に努めること C- (13) 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること		
内容項目の概要	生きていくには、自分の仕事に誇りと喜びを見だし、生きがいをもって仕事を行えるようにすることが大切である。働くことは、日々の糧を自ら得て自立するなど単に自分の生活の維持向上を目的とすることだけでなく、働くこと自体が自分に課された社会的責任を果たすという意味においても重視する必要がある。人間生活を成立させる上で働くことは基本となるものであり、一人一人が働くことのよさや大切さを知ることにより、みんなのために働くこととする意欲をもち、社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びを味わうことができる。このように働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことを通して、その意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとつなげて捉えることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観を育む上でも重要なことである。今日、社会環境や産業構造等の変化に伴い働き方が一様でなくなり、働くことに対する将来の展望がもたなくなっている。働くことや社会に奉仕することの意義の理解は大切であるが、このことは一律に望ましいとされる勤労観・職業観を教え込むことではない。身近な人から集団へと人との関わりを広げながら、児童一人一人が働く意義や目的を探索し、みんなのために働くことの意義を理解し、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育成することが重要である。						個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成に主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。自分が生きている身の回りを含めた社会に実際に関わっていくという態度を育て、多くの人々と助け合い励まし合いながら社会連帯を深めることが求められる。社会の発展に寄与する態度を養うことが大切である。勤労は個人や家庭の生活を維持するという面、社会を支えるという面があり、自らの内面にある目的を実現するために働くという考えもある。人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。勤労を通して社会に貢献するということを実践し、充実した生き方を追求し実現していくことが、一人一人の真の幸福につながっていくことにもなる。		
学年別特質	何事にも興味をもって生き生きと活動し、みんなのために働くことを楽しんでいる児童が多い。そのような実態を生かし、自分たちが行った仕事やみんなの役に立つことへのうれしさ、やりがい、そのことを通して自分の成長などを感じられるようになる。		みんなのために働くことで楽しさや喜びを味わうことがある一方で、働くことを負担に感じたり、面倒に思ったりする様子も見られる。このことから、自分の役割を果たし、力を合わせて仕事をするなどの大切さを理解できるようにするとともに、進んで働くようになる。		勤労を専ら心で育てながら、働くことの意義を理解して社会の役に立つことができるようになる必要がある。この段階の児童は、仲よく仲間と一緒にする仕事には意欲的に取り組むが、共同作業や集団での仕事などを嫌う傾向がある。中学校への進学を期する時期に、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、汗を流すことの尊さや達成感、仕事を成し遂げた時の喜びややりがいなど、働く意義や社会に奉仕する喜びを児童一人一人に体得させ、進んで実践しようとする意欲や態度を養うようにする。		学年が上がるにつれて、社会において人間関係が希薄化する傾向が見られ、他者に対する配慮を欠き、自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。本来自己中心的で自分勝手な言動をよくないとおもう心が内面には十分あり、誰もが望むよりよい社会の実現について同時に考えることもできる。社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えるとともに、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつようになる。一方で、現実的に道徳の選択を迫られる時期でもある。		
指導上の留意事項	学級の清掃や給食などの当番活動、学級生活の充実に向けた係活動、家庭や地域社会での決められた仕事など、みんなのために役に立とうとする意欲や態度に結びつけるようにする。		身の回りの生活の中で、集団の一員としてできることについて考え、自分ができる仕事を見つけたら、集団生活の向上につながる活動に参加したりして、みんなのために働くこととする意欲や態度を育むようにする。		勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また、ボランティア活動など、社会への奉仕活動などから得た充実感を基に、勤労と公共の精神の意義を理解し、公共のために役に立とうとする態度を育てるようにする。		○学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かし、公共の精神についての考えを深めさせる。 ○進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育て、主体的に考えられるようにする。 ○体験的な学習を生かして、働くことの重要性について理解を深めさせる。 ○キャリア教育と関連させて、職場体験活動やボランティア活動などを生かすなどの工夫が求められる。 ○働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てる。		
資料	「ケイくん たけいびん」 (第一小・美東小) うとく 「そうじ」 (第一小・美東小) うとく 「よくのよいができたよ」 (美西小・こころつないで)	「ふしぎな気持ち」 (第一小・美東小) うとく 「野さいバーディー」 (第一小・美東小) うとく 「まはながかり」 「ゆかみがき」 (美西小・こころつないで)	「わらじ作り」 (第一小・美東小) うとく 「お田さんの朝市」 「ゆかみがき」 (美西小・心つないで)	「みんなのために働くバックヤードでも」 「はたらくことの大切さを知って」 (第一小) 「わたしたちの道徳」 「神戸のふっごうは、ぼくらの手で」 (美東小・みんなのうとく) 「気持ちのよいあせ」 (美西小・心つないで)	「ボランティアクラブに入って」 「牛乳配り」 (第一小・文芸室) 「ボブ・ケッツ・ザ・ワールド」 「小さな手から」 (美東小・みんなのうとく) 「この思いをフェルトペンにたくして」 (美東小・みんなのうとく) 「病室607号」 「どうも私にはわからない」 (美西小・心つないで)	「よみがえれ日本海」 (第一小・みんなのうとく) 「マザー・テレサ」 (第一小・美東小) うとく 「この思いをフェルトペンにたくして」 (美東小・みんなのうとく) 「病室607号」 「どうも私にはわからない」 (美西小・心つないで)	「バスと赤ちゃん」 「自分を見つめる1」 「小さな歩」 「自分を見つめる1」 「午前一時四十分」 「自分を見つめる1」	「老門番と茶屋の老女」(自分を考える2) 「あるレジ打ちの女性」(とっておきの道徳授業7) 「日本にいたい社会」(とっておきの道徳授業8)	「たんぼほ作業所」(職業体験) 「足踏みミシンの修理屋さん」(図書文化)
東中校区目に係る	東中校区子どもサミット「いじめ防止のスローガン作成や活動等」								
内容項目に係る	第一小 大掃除 お手伝い作戦 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 大きなあれ わたしはのやさい 野菜作りと世話 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 大掃除 係・当番活動 美東小 係・当番活動 美西小 PTA親子環境整備作業	第一小 係・当番活動 大そうじ 美東小 プール清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業	第一小 プール清掃 臨海学校 美東小 プール清掃 菅川清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業	第一小 プール清掃 環境美化作業 美東小 プール清掃 環境整備作業 菅川清掃 美西小 プール清掃 運動会 PTA親子環境整備作業 愛校作業	環境整備作業 (春・秋)	環境整備作業 (春・秋) チャ レンジウィーク	環境整備作業 (春・秋)

5 事業の成果及び課題

(1) 事業の成果

- ① 東中校区の重点項目である「勇気・強い意志」「思いやり」「勤労・公共の精神」についての教育活動や資料も載せた系統表を作成することができた。この系統表により、小中一貫した道德教育の流れについて具体的に把握することができると共に、活用することで各教育活動のつながりがわかり、より重点項目を意識した実践ができるようになった。
- ② 道德教育講演会を行うことで、道德の教科化を見据え、求められている道德の授業について理解を深めるとともに、学年による読み物資料の構成の違いや、発問の工夫など、授業づくりの大切なポイントについて具体的に知ることができ、教師の指導力の向上につなげることができた。
- ③ 地域や家庭に道德の指導の様子を学級通信やWebページで発信したり、道德の授業で行った内容項目について家庭で考えさせるような取組を行ったりすることで、地域や家庭と連携した道德教育を行うことができた。

(2) 今後の課題

- ① 重点項目についての系統表をより活用し、系統表に沿った実践を行うとともに、他の内容項目に関わる系統表も作成し、さらに、小中一貫した道德教育を実践していく。
- ② 系統表と別葉、年間指導計画を参照しながら、他の教科においても道德教育を意識して、教育活動全体を通じて、道德教育を推進していく。
- ③ 東中校区で取り組んだ成果を市内全体に広げ、道德における小中一貫教育がさらに推進されるよう情報提供していく。

6 参照できるホームページ

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/> (藤岡市教育委員会)

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010001> (藤岡第一小学校)

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010006> (美九里東小学校)

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010007> (美九里西小学校)

<http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020001> (東中学校)